

指導主事とICT支援員が学校と密に連携し、ICTを活用した授業改善と働き方改革を推進

兵庫県宝塚市教育委員会

宝塚市教育委員会は、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けて、学校教育の情報化を着実に進めるため、2024年度に「第2次宝塚市GIGAスクール推進計画」を策定した。同計画の推進にあたっては、教員のICTを活用する力の向上が欠かせないため、ICT活用に関する研修の充実や支援体制の強化を図っている。一方で教員に負担がかからないよう、一人ひとりの教員の働き方や働きがいにも配慮しながら取り組みを進めている。

自治体概要

第2次宝塚市教育振興基本計画において、「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に作る人づくり」を教育の基本目標に掲げる。自尊感情を始めとする人権意識の醸成や体力づくり、ICT機器を活用した教育の実践に力を入れている。

人口 約22万人 面積 101.9km²

市立学校数 小学校23校、中学校12校、特別支援学校1校

児童生徒数 小学校約1万1,400人、中学校約5,200人

教員数 約780人

ICT環境の整備により、教員の柔軟な働き方を支援

宝塚市教育委員会（以下、市教委）は2021年度、「ICTによる新たな学びの実現」「学校におけるICT活用の促進」「教員のICT活用による指導力の向上」を基本方針とした「**宝塚市GIGAスクール推進計画**」（以下、第1次計画）を策定し、1人1台端末の配備や高速ネットワーク環境の整備などを積極的に進めてきた。2022年度には、校務用と学習者用のネットワークを統合し、教員の校務用端末をそのまま授業に活用できる環境も整えた。

さらに、文部科学省の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に基づいて「**宝塚市教育情報セキュリティポリシー**」を策定。校務用端末を自宅に持ち帰ることを可能にするなど、教員の柔軟な働き方の実現と業務の効率化が両立できるよう支援している。

2024年度には第1次計画の成果と課題を整理し、第2次計画を策定した。学校教育部の山下昌裕次長は、

「子どもたちには授業を通じてより一層のICT活用力を育むことが重要だ」と語る。

「Society5.0を生きる子どもたちには、ICTを使いこなす力が必要不可欠であり、その育成の場として最適なのが授業です。子どもたちがICTを駆使して学びを楽しみ、深める場面が授業の中で今まで以上に実現できるよう、第2次計画では教育委員会と各学校が取り組むべきことを具体的に示し、必要な局面では市教委がリーダーシップを発揮しながら、学校教育の情報化を推進しています」

同計画を実行する上で市教委が力を入れているのが、好事例の学校間での横展開だ。第1次計画では小学校2校、中学校1校を、「**宝塚市版GIGAスクールリーディングプロジェクト校**」（以下、リーディングプロジェクト校）に指定。他市の先進的な授業などを試行してもらい、その成果を、研修会や発表会等を通じて市内の各学校に共有することとした。ただ、そうした実践についての各校の受け取り方には温度差があったと、教育研究課の辻晃英課長は振り返る。



学校教育部 次長

山下昌裕

やました・まさひろ

兵庫県公立小学校教員、校長等を経て、2024年度から現職。



教育研究課 課長

辻 晃英

つじ・あきひろ

兵庫県公立小学校教員、教頭等を経て、2024年度から現職。



教育研究課 指導主事

前川真宏

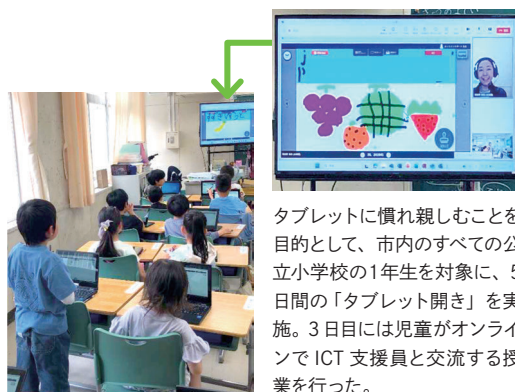
まえかわ・まさひろ

兵庫県公立小学校教員を経て、2019年度から現職。

「本市の多くの研修は、これまで各校の代表者が参集する形で実施されてきました。しかし、参加者が持ち帰った情報の伝わり方には、学校によって濃淡がありました。そこで2024年度からは、参集型研修を拡充して多忙な教員に負担をかけるのではなく、できるだけ指導主事が各校に出向き、全教員に直接、リーディングプロジェクト校の実践について説明するようにしました。学校訪問

図1 小学1年生対象の導入プログラム「タブレット開き」

日程	内容	支援員の参加方法
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使う時の約束（持ち方・聞き方・置く場所） ・タブレットへのログイン（電源・学習アプリ・シャットダウン） 	学校訪問
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットへのログイン（復習） ・オクリンク*1の名前、ペン機能を使って、書いたものを先生に提出 ・タブレットのシャットダウン 	学校訪問
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員と2日目に勉強したことをオンラインでやり取り ・タブレットへのログイン ・オクリンクを使って、名前や好きな遊び・果物を紹介 ・タブレットのシャットダウン ・今日の感想 	オンライン
4日目	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットへのログイン ・カメラを使ってオクリンクに写真を貼る 	学校訪問
5日目	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学んだことを受けての作品作り 	学校訪問



タブレットに慣れ親しむことを目的として、市内のすべての公立小学校の1年生を対象に、5日間の「タブレット開き」を実施。3日目には児童がオンラインでICT支援員と交流する授業を行った。

※宝塚市教育委員会の提供資料を基に編集部で作成。

を終えた指導主事からは、『過去の参集型研修で共有していた内容を改めて説明したところ、こちらが伝えていたはずの内容が、実は伝わってなかったことが分かった』といった声も聞いています」

必要な時にオンラインでICT支援員のサポートを

市教委が主導する好事例の横展開の1つが、小学1年生を対象にした5日間の「タブレット開き」だ(図1)。電源の入れ方・切り方からドリルパーク*2の使い方まで、1日に1コマ、5日間連続のプログラムで、子どもたちに教えている。教育研究課の前川真宏指導主事は、次のように説明する。

「授業の中にICTをうまく取り入れているリーディングプロジェクト校では、低学年の時から子どもたちにICT活用の素地を育てています。しかし、『キーボード入力ができないうちは、タブレットを使った活動は取り組みにくい』といった先入観を持っている教員がいるのも事実です。そこで2024年度からは、市内のすべての公立小学校で、1年生に対して5日間にわたる『タブレット開き』を

実施することとしました」

電源の入れ方から学習アプリの使い方までを体験するプログラムを担当だけで行うのは負担が大きい。そこで、市教委から指導主事とICT支援員*3がサポート役として授業に入ることにした。

「5日間の授業のうち、3日目には、子どもたちがそれまでに学習した内容を題材に、オンラインでICT支援員とやり取りする時間を設けました。全く抵抗感なく活動に取り組む子どもたちの姿を見て、授業を見学した教員は、1年生でもここまでできるのだと目線合わせができたはず。また、ICT活用についていま一つ自信がないという教員にとっても、1人1台端末を活用した授業づくりについてヒントを得る機会になったと思います」(辻課長)

さらに「タブレット開き」には、ICT支援員の力を借りることで、ICTを活用した授業づくりの負荷が減ることを教員に知ってもらうというねらいもあった。

「本市では2024年度に『ICTサポートONLINE』*4を導入し、教員が空き時間などを利用して、オンラインでICT支援員のサポートが受けられる体制をつくりました。本市は

3人のICT支援員が小学校を巡回していますが、各校を訪問するのは2週間に1回程度で、教員のICT活用の疑問や困りごとに迅速には対応できていませんでした。『ICTサポートONLINE』を採用することで、教員が希望の時間にオンラインで相談して、疑問や困りごとを解消できるようになりました」(前川指導主事)

「タブレット開き」により、教員は1年生の授業におけるICT活用の可能性を知り、ICT支援員の存在について理解を深めることができた。教員とICT支援員の距離も縮まったと、前川指導主事は感じている。

「以前はICT支援員が来校しても教員が多忙で、相談時間が十分に取れないことがありました。しかし、5日間の『タブレット開き』を通じて、教員とICT支援員の関係性が構築されて、教員にはICT支援員に積極的に相談したいという気持ちが生じています。その結果、ICT支援員の来校日について、『その日は学校行事の関係でじっくり相談できる教員が少ない。別の日に変更してもらえないか』などと、学校がICT支援員に直接相談している場合もあるようです」(前川指導主事)

*1 モニタリング機能や画面共有機能などで授業を支援する、ベネッセが提供するアプリケーション。 *2 手書き入力問題も含めた豊富な問題数、宿題配信機能、リアルタイムモニター、AI機能、学力調査との連動などを備える、ベネッセが提供するデジタルドリル。 *3 学校でICT機器やソフトの活用を支援を行う外部人材。ベネッセでは訪問型のICT支援員がICTサポートサービスを提供している。 *4 ICT機器やソフトの活用を支援を行う、ベネッセが提供するオンラインICTサポート。オンラインでICT活用の相談ができ、メタバース空間での質問も可能。

図2 2024年度夏季休業中のスキルアップ講座一覧と、教職員ICTスキルチェックリストとの対応表(抜粋)

■ 2024年度夏季休業中のスキルアップ講座一覧(抜粋)

	7/22月	7/23火	7/24水	7/25木	7/26金	7/29月	7/30火	7/31水	8/1木	8/2金
9:30 ～ 10:30	Office 入門 (Word/Excel/ PowerPoint)	Office 入門 (Word/Excel/ PowerPoint)	—	—	ICT 機器入門	Teams 入門	Office 入門 (Word/Excel/ PowerPoint)	Teams 入門	オクリンクを 使おう(実践 編)	Teams (共同 編集編)
11:00 ～ 12:00	スキルアップ Word	応用 Word	—	—	Office 入門 (Word/Excel/ PowerPoint)	スキルアップ Word	オクリンクを使 おう(入門編)	ドリルパークを 使おう(入門 編)	Forms (アン ケート・小テ スト)	スキルアップ Word
13:30 ～ 14:30	スキルアップ Excel	応用 Excel	オクリンクを 使おう(入門 編)	—	Forms(アンケ ート・小テスト)	Teams (共同編集編)	—	—	—	—
15:00 ～ 16:00	スキルアップ PowerPoint	応用 PowerPoint	オクリンクを 使おう(実践 編)	—	Office 入門 (Word/Excel/ PowerPoint)	Teams 入門	—	—	—	—

■ 教職員ICTスキルチェックリストとスキルアップ講座との対応表

ステップ2	授業・校務でICTを効果的に活用するための汎用的なスキルを身につけている	スキルアップ講座名
2-1	Web 会議ツール (Teams) を用いた会議に参加したり、メンバーを招待して Web 会議を開催したりすることができる	Teams (オンライン会議・チャット編)
2-2	校務用 PC 端末で Teams や授業支援ソフトの機能を用いて、設定されたクラスのメンバーにメッセージを投稿することなどにより、連絡事項を伝えることができる。また、チャットの使い方を理解している。	Teams (共同編集編) SKYMENU-Cloud を使おう (実践編) オクリンクを使おう (実践編)
2-3	グループ学習で意見交換などをする際の、複数同時編集機能 (Word や Excel の共同編集・whiteboard など) の使い方を理解している。	ドリルパークを使おう (入門編) 発展編 PowerAutomate で業務改善 プログラミング講座

上記のほか、ドリルパーク (ドリル教材) や業務改善のためのアプリの操作研修も用意している。

*宝塚市教育委員会の提供資料を基に編集部で作成。

ICTスキルの向上で進む校務の合理化と授業改善

対面だけでなく、オンラインでもICT支援員の力を借りやすくすることで、教員が自律的に校務の効率化と授業改善に取り組めるようになると、山下次長は考えている。

「どの教員も、子どもたちに『分かった!』という感動や『楽しい!』という喜びを味わわせたいと願っています。その願いを実現するためのツールとして、ICTは有効です。だからこそ、ICTを活用した授業準備がICT支援員のサポートでスムーズに行えれば、教員の働き方にもよい影響をもたらすと考えています」

指導主事やICT支援員が学校を訪問する体制を充実させる一方で、参集型研修のあり方の改善も進めている。夏季休業中に教員のICT活用力の向上を目指した**スキルアップ講座**

を開催しているが、2024年度は授業改善や校務の効率化に役立つ約10種類の講座を複数回開催。延べ約60コマの講座を用意して、教員が自分のニーズやスケジュールに合わせて参加しやすいようにした(図2)。

また、兵庫県教育委員会による教員ICTスキルチェックリストを基に市教委が作成した「**宝塚市立学校教職員ICT活用スキルチェックリスト**」とスキルアップ講座との対応表を作成し、教員が自身のICT活用のスキルを確認し、自分に合った講座を選びやすくした(図2)。各講座の講師はICT支援員が務めている。

「教員が自分に必要な研修を自律的に、無理なく受けられるようにすることも、働きがいを高めることにつながります。2024年度は、任意参加にもかかわらず、約1,200人の教職員のうち延べ200人が受講しました。『ICT活用力を高めてもっとよい授業

をしたい』と、ベテランの教員も積極的に参加していました」(山下次長)

ICT活用が進めば授業改善が進む可能性も大きく高まる。だが、ICTに不慣れな教員がICTを活用するために負担を強いられるようでは、教員の働きがいを損ねてしまう。教員の働き方改革と授業改善の両立を目指して、今後も支援を続けていきたいと、市教委では考えている。

「学校教育においてICT活用の領域はさらに広がるでしょう。例えば、いじめや不登校の早期発見・対応は全国的に重要な課題ですから、ICTを活用して子どもの健康状態や心の状況を、教員がいち早く把握できるような仕組みをつくることも、今後は求められるはず。ICTの力を生かしながら、それぞれの教員が自分の力を発揮できる環境を、教員に負担をかけることなくつくっていきたいと考えています」(山下次長)



オンラインサポートの活用で校務の効率化と円滑な授業改善を実現し、生徒に向き合う余裕をつくる 宝塚市立南ひばりが丘中学校

日々の授業改善につながる疑問をオンラインで気軽に相談

宝塚市版 GIGA スクールリーディングプロジェクト校である宝塚市立南ひばりが丘中学校は、ICT を活用した先進的な教育に取り組むために、ICT 支援員のオンラインサポートを活用している。

オンラインでの相談で多いのは、「このアプリは何ができるのか、どう使うのか」「こんな授業を実現するためには、どのアプリをどう使えばよいか」といった日々の授業に直結する内容だと、主幹教諭の末吉克行先生は語る。

「オンラインによるサポートは、ICT 活用に関する疑問が生じた時に、ICT 支援員の来校を待つことなく、気軽に相談できるのがメリットです。もちろん、すべての疑問がその場で解決できるとは限りません。『考えてみます』と、ICT 支援員が預かるケースもありますが、専門知識を持ったプロに任せられるので、教員が目の前の困りごとに一度距離を置き、別の角度からも考えてみるような余裕が生まれます」

主幹教諭の曲五月先生は、オンラインでのサポートを通じて ICT 支援員と新しい教材を作った経験を持つ。

「特別支援学級での自立活動の授業で、空間認知が苦手な子どもが地図を使った活動に取り組むアプリを一緒に

作りました。子どもが興味を持って取り組んでいたことを伝えると、『もっとなることができるはずなので、一緒に考えましょう』と言ってもらえて、心強かったです。今後、場面緘黙*5の子どもとのコミュニケーションに役立つツールを ICT 支援員と一緒に作ってみたいと考えています」（曲先生）

ICT 支援員のサポートによって子どもに集中する余裕が生まれる

オンラインを活用した ICT 支援員とのやり取りが増えたことで、ICT に詳しい特定の教員に相談や質問が集中する状況も減っていった。

「年度初めのソフトの設定切替も、ICT 支援員の協力がなければ一部の教員に作業が集中していたでしょう。ICT 支援員が密にかかわってくれることで、教員全体の ICT 活用力の底上げになっていると思います」（末吉先生）

ICT 教材の開発や活用から学年の会計業務に利用する表計算シートの作成まで、ICT に関する疑問に直面した教員が「分からないから、オンラインサポートに聞こう」と話す声が、職員室であたり前のように聞こえてくると上田征子先生は語る。

「大事なものは ICT を使うことではなく、ICT を使いながら子どもにしっかりと向き合うことです。オンラインを始



主幹教諭、教育計画担当
末吉 克行
すえよし・かつゆき
技術科。



主幹教諭、通級指導担当
曲 五月
まがり・さつき
研修・特別支援コーディネーター。



教諭、情報教育担当
上田 征子
うえだ・せいこ
特別支援学級担任。

■学校概要

設立 1976 (昭和 51) 年 生徒数 486 人
学級数 17 学級 教員数 37 人

めとして ICT 支援員の力を借りることで、自分の頭や心に余裕が生まれ、目の前の子どもに集中できるようになりました。以前は、顧問として部活動に立ち会っている時も、『あのデータはどうやって処理すればよいのだろう』などと考えてしまい、子どもたちから心が少し離れてしまう瞬間があったように思います」

授業における ICT の活用は、生徒にとっては未来を生きる力の育成につながると、上田先生は考えている。だからこそ、「生徒に向き合う教員は、苦手意識を理由に ICT を避けることはあってはならない」と語る。

「生成 AI の活用など、新しく勉強すべきことはたくさんあります。新しいことを始めるのは大変だからこそ、上手に ICT 支援員に頼ることが大切なのだと考えています」（上田先生）

名前(ひらがな)	感想反省
	みんなと一緒に走れて楽しかった
	新しい走り練習を自分から進んでやった
	3年生と対決したかった
	が！左のドリブルが少し弱いと言ってくれて、左のドリブルを強くしようと思った。
	フォーメーションをしっかり理解できるようにしたいです
	2点決められてうれしかった。もう1本入れられそうだったからシュートも頑張りました。
	ディフェンスの出るタイミングなどをしっかりとつかむ
	フォーメーションの動きを理解して、使えるようにする
	インターセプトのタイミングが難しい
	左のドリブルでディフェンスを抜けるようにする
	1対1を少ししかしていませんでした
	1対1の後のシュートを入られるようにしたい
	新しい1対1が楽しかった
	試合で点を入れたかった
	1対1で強気で攻めていければと思います
	自分でシュートを打てる時は打って、打てそうじゃないときはパスをするようにする
	累いときの外圍がとても気持ちよく感じた。また走りたい。
	1対1でシュートをたくさん落としてしまった
	ゴール下をたくさん落とした。自分でシュートに行ったらうまいと思った
	24秒計のやり方を極めた
	B戦でこーるしたをきめられてうれしかった

写真 上田先生が ICT 支援員と一緒に作成した部活動の日々の振り返りツールの。生徒の思いを一覧で見ることができるようになっていて、部活動の人間関係のトラブルなども、発見しやすくなったという。

* 5 ほかの状況では話しているにもかかわらず、心理的な要因などにより、特定の状況になると話すことが一貫してできなくなる状態。